

第2章 白岡市の環境目標

1. 白岡市の望ましい環境像

「青空が広がる自然と豊かな心を育むまち しらおか」

これは、前計画である（第1次）白岡市環境基本計画で定めた市の望ましい環境像です。

私たちが住む白岡市を見渡すと、様々な自然の恵みや、先人たちから守り伝えられてきた風景を感じることができます。空を見上げると遠くまで見渡せる青空があります。まちを見渡すと、元荒川、見沼代用水、隼人堀川、柴山沼などの水辺、屋敷林、社寺林、里山などの樹林、水田、梨園などの田園が織りなす風景があります。

この望ましい環境像は、白岡市で生活し、事業活動を行う私たちが、このような素晴らしい環境を、親から子へ、子から孫へ、そしてさらに次世代へと残すために、環境を思いやる豊かな心を持ち続けることを目指したものです。この理念は、現在も変わらない長期的なテーマと捉えることができます。

そのような中、第1次計画期間における市においては、圏央道白岡菖蒲 IC と久喜白岡 JCT 間の開通、圏央道の桶川北本 IC と白岡菖蒲 IC 間の開通などがあり、まちの姿が変化しています。

各種環境データにおける市の環境の状況では、特に大きな変化は見られませんが、都市化が進展する中での市民アンケート調査結果では、市民の意向として自然環境の保全と都市化の両立が求められています。

また、世界に目を向けると、令和 12(2030)年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である SDGs の採択を契機に、「持続可能な開発」を目指す機運がさらに高まっています。このような中で、白岡市においても地球規模で考えた足元からの取組をより一層推進していくことが求められています。

これらのことから、第2次白岡市環境基本計画の望ましい環境像を以下のように定めます。

**青空が広がる自然と豊かな心を育む
“ 持続可能 ” なまち しらおか**

白岡市は、この望ましい環境像を目指し、都市として発展しながらも、「市・市民・事業者」の三者協働により、真に豊かで快適な持続可能な環境づくりを行うものとしします。

2. 基本目標と取組の目標とSDGsとの関係

白岡市の望ましい環境像「青空が広がる自然と豊かな心を育む“持続可能”なまち しらおか」を実現するため、5つの基本目標と10の取組の目標を掲げ、施策に取り組みます。

また、各取組は、望ましい環境像の実現を目指すとともに、SDGs（持続可能な開発目標）に資する取組としても位置付け、白岡市においても地球規模で考えた足元からの取組をより一層推進するものとします。ここでは基本目標ごとに主に関連するSDGsの目標を示します。

【SDGs - 「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」 - 】

SDGsは、地球環境と人々の暮らしを持続的なものとするため、すべての国連加盟国が令和12(2030)年までに取り組む17分野の目標のことです。生産と消費の見直し、海や森の豊かさの保護、安全なまちづくり等、先進国が直面する課題も含まれています。



基本目標と取組の目標及びSDGsとの関係

青空が広がる自然と豊かな心を育む“持続可能”なまち さらおか

【基本目標 1 自然環境】自然の恵みである水と緑がいつまでもそばにあるまちを目指して

取組の目標 1. 人間と共生してきた水と緑を守り、育てよう
2. 身近な生き物を大切にしよう



【基本目標 2 生活環境】身近なところから健康な暮らしを感じられるまちを目指して

取組の目標 1. 公害のないまちをつくろう



【基本目標 3 快適環境】豊かな風景と心地よい生活を未来へ引き継ぐまちを目指して

取組の目標 1. 日常生活を彩るすぐれた景観を守ろう
2. 市民の憩いの場となる空間をつくろう
3. 安全で安心して暮らせる都市空間をつくろう
4. きれいで清潔なまちをつくろう



【基本目標 4 地球環境】地球のことを考えて行動し、いつまでも星がみえるまちを目指して

取組の目標 1. 日常生活・事業活動から地球への配慮を考え行動しよう
2. ものを大切にしながら、ルールを守りごみを減らそう



【基本目標 5 人づくり】私たちの明日と未来のため、あらゆる世代が環境問題に取り組むまちを目指して

取組の目標 1. 身近に感じられるようになった地球環境問題や、市のより良い環境について考え、取り組む人を育てよう

